

「9年間でいただいた宝物」

だいだいのくみ　☺☺　☺☺

長女、長男から始まり、次女、そして☺☺と、気がつけば常に誰かが幼稚園に通っている生活も今年で8年目となります。

振り返れば、☺☺のむらさき幼稚園との出会いは入園前に1年間通ったプレイルームでした。当時は、なかなか部屋に入ることができなかったり、行事で皆が遊戯室に集まっている時にも、一人で園庭で遊んでいたり。親としては寂しい気持ちと心配な気持ちが入り混じり、「上の子と同じく、この子も集団が苦手なのかな。この先、大丈夫かな」と不安になりました。

発達検査では遅れを指摘され、どう捉えたら良いか悩みました。そんな私に先生がかけて下さった言葉や関わりの一つ一つから、私は「とにかく大丈夫！」と太鼓判を押してもらったような安心感をいただきました。そして何より、「この子の一番の味方でいよう」と思わせて下さりました。

年少の頃の運動会は、今でも忘れられません。最初から最後まで、ずっと先生におぶさり、かけっこでも先生が☺☺をおんぶしたまま走ってくださいました。

お弁当の時間では、皆と一緒に食べることができず、一人離れた場所で食べていました。それでも先生は「皆と同じように」と無理に合わせるのではなく、☺☺が食べられる場所で食べさせて下さりました。その姿を見て、子どもの今をそのまま受け止めてもらえる事のありがたさを感じました。

私が特に好きなのは、先生が子どもにかけて下さった「まあ、そういうこともあるよね」という言葉です。上手くできない事や、思い通りにならないことがあっても、良い事も、嫌な事も、丸ごとひっくるめて「オッケー」と言われているようでした。

子育てをしていると、つい周りの子と比べてこのままで大丈夫なのかとか、親としてちゃんとやれているか不安になる事があります。そんな時、先生方はいつも☺☺の軸で☺☺の成長を見つけて下さり、私にも共有して下さりました。それがとても嬉しく、心強かったです。

年中になると、入園当初から続いていた登園渋りも少しずつましになり、バスで帰ってこられるようになりました。時には先生を追いかけてクラスメイトに交じって走ったり、友達の名前を言ったりする姿も見られ、「こんなこともできるようになったんだ」と驚かされました。

そして年長になると、行事の代表に自分から立候補したり、お泊まり保育にも張り切って参加したりと、親の予想を超える姿を見せてくれるようになりました。幼稚園で過ごす中で、私が知らなかった☺☺の新たな一面をたくさん発見することができました。

4人の子どもたちは、それぞれ性格も成長の仕方も違います。この8年間を通して、「比べなくていい、この子自身の成長を見よう」と思えるようになったことは、私にとって大きな学びでした。

もちろん日常では、私もつい余裕をなくして鬼と化してしまうことも少なくありません（笑）。それでも、☺☺の一番の味方でいること、そしてその子自身の歩みを信じることを、これからも大切にしていきたいと思います。

長女から始まった幼稚園生活も、☺☺の卒園で一区切りとなります。8年間、4人それぞれの成長を温かく見守り、時には私たち親の不安まで受け止めてくださった先生方に、心から感謝しています。「まあ、そういうこともあるよね」という大らかな眼差しに、何度も救っていただきました。

これまで幼稚園でいただいた抱えきれないほどのたくさんの経験と温かい思い出を胸に、これからも子どもたちそれぞれの成長を、焦らず、比べず、見守っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

